

北郷里小学校からの報告

「みずすまし」水生生物調査結果表

調 査 場 所 名 (No.)		垣籠町内	No.1	No.2	No.3									
月 日 時 刻		6月3日	14時00分											
天 気		晴れ												
水 温 (°C)		19.0 °C												
気 温 (°C)		24.0 °C												
川 幅 (m)		1.6m												
河 川 名		春近川上流												
生 物 を 採 取 し た 場 所		川の中央												
水 深 (cm)		6.0cm												
流 速 (cm / s)		41.0 cm/s												
水 の よ う す	指標生物													
I き れ い	1	カワゲラ類	○											
	2	ナガレトビケラ・ヤマトビケラ クロツツトビケラ類												
	3	ヒラタカゲロウ類	○											
	4	ブユ類												
	5	ヘビトンボ類	○											
	6	ガガンボ類												
	7	サワガニ	●											
I・II 共通	8	ウスムシ類												
	9	2以外のトビケラ類												
	10	3、14以外のカゲロウ類	○											
II 少しよごれている	11	ヒラタクロムシ類												
	12	シジミ類	○											
II・III 共通	13	カワニナ	○											
III よごれている	14	サホコカゲロウ												
	15	ヒル類												
	16	ミスムシ												
	17	モノアラガイ												
III・IV 共通	18	サカマキガイ												
IV 大変よごれている	19	赤いユスリカ												
	20	イトミミズ類												
	21	ハナアブ類												
水 質 判 定 表	水のような区分		I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV
	1	みつかった指標生物の 種類の計 (○+●)	5	3	1									
	2	みつかった指標生物のうち 一番数の多くあった種類(●)	1											
	合 計 (1欄+2欄)		6	3	1									
	判定結果(合計が最も大きい区分)		I											

調査考察、活動内容等

我が校では、昨年に引き続き、4年生全員が総合学習の一環として水生生物調査に取り組みました。調査する河川は学校のすぐ近くを流れる春近川です。今年度も春近川の上流地点を調査しました。毎年同じポイントを調査することで、水生生物の生息の実態から水の汚れ具合を比較することになっています。毎日見ている馴染みの河川を調べることで、子ども達の意欲も高まり、水質の現状をよりリアルに感じてもらえると考えます。この学習を通して、様々な水生生物を発見する楽しさを体験することにより、春近川の状態を推測することができました。

○春近川 上流

6月3日 14時 天気：曇り
水温：19℃ 気温：24℃
川幅：1.6m 水深：6cm
川底：小石と砂
水のおい：感じられない
水の濁り：透明できれい



春近川は、江戸時代から姉川の水を底樋で引いてきた水が流れています。現在、川の側面は、丁寧に石垣が傾斜をつけてしきつめられ、きれいに整備された川となっています。調査ポイントは北郷里小学校から500mほど北東へ上った上流で行いました。田んぼの中に位置するこの場所は、子ども達にとって、いつも見ているが実際に川の中に入るのは初めてだという状況でした。この日は曇りで、水温も例年と比べると少し低い状態でした。

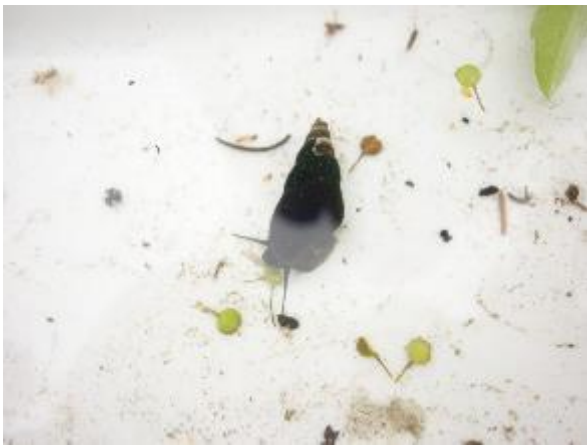
まず、川へ入る前に、川辺から川の様子を観察しました。水は透明で特に臭いはしませんでした。川辺から見ていると水生生物が生息しているようには思えず、子どもたちも、「生き物とれるかな。」と、少し不安そうでした。水生生物が生息していそうな場所やとり方などを説明して、各グループごとに川へ入りました。水生生物が隠れていそうな水草の間、川底や側面の岩の間などを網やザルで探ると、たくさんの水生生物がとれ、子どもたちは夢中になって採取をしました。水生生物の採取後、種類ごとに分類しました。分類した水生生物を調査結果表に当てはめながら、水の状態を推測していきました。





調査の結果、最も多く見つかった生物は、サワガニ、カゲロウ類、次いで多かったのが、ヒラタカゲロウ類、シジミ類、カワニナなどでした。水生生物から判定すると、水の状態は、「きれい」と判定できました。

子ども達は普段から目にしている川にこんなにも多くの生物がいることに驚き、虫取りなどが苦手な子でも、たくさんの水生生物がとれたことに感激していました。調査が終わった後、水生生物を元の川に放流することで、生き物の命の大切さを感じることもできました。



◇パックテストによる調査

調査場所でパックテストによる調査を行いました。この調査方法も子ども達は興味関心を持って、観察していました。水生生物から、水の状態を調査した後で、試薬を使って、その結果の裏付けをしました。パックテストをする前に子ども達からも水質について予想してもらいました。自分達が取った水生生物がどのような水に生息することができるかを調べ、パックテストの結果と照らし合わせることで、一つの調査から結果を判断するのではなく、複数の結果から判定結果を導き出すことがより確かな調査方法であるということを学ぶよい機会となりました。



結果 【2】・・・「きれいな水」と判定

(子どものまとめ新聞より)

- ・春近川の水は、きれいじゃないと思っていたけど、意外ときれいでした。
- ・サワガニやスジエビがたくさんとれました。自分的にはもっと魚がとれると思っていたけど、思っていたよりとれませんでした。
- ・春近川はきれいな川でした。魚のカワムツもいました。中には、見たことのない水生生物ももいてびっくりしました。
- ・春近川の水はきれいでした。すこし汚れている水だと思っていたけど、とれた水生生物を調べたら、きれいな水にいる生き物が多かったので驚きました。

まとめ

水生生物の調査結果から、春近川の水は「きれいな水」という結果でした。これは、調査をしたポイントが川の上流であったことと、環境的に生活排水の流れ込みが少ないことが理由として考えられます。

子どもたちにとって、水生生物の調査は地域の川と触れ合う良い機会になりました。「もっととりたい。」「他のところでも調査をしてみたい。」など、身近な自然に興味をもっていました。また、身近な環境について考えるきっかけ作りにもなりました。数年間の調査結果と比較してみると、春近川の環境は大きく変化をしていないことがわかりました。地域の川を守っていくために何ができるかを子どもたちに考えさせ、自然を大切にする気持ちを育てていきたいと思います。